

朝鮮族学校における日本語の 教育方法の変化に関する一考察

九州大学大学院比較社会文化学府
博士課程3年 永嶋洋一

実はいま博士論文を書いています...

テーマは

「中国朝鮮族の日本語教授法と言語習得
—朝鮮族学校での日本語教育を事例として—」

朝鮮族学校では朝鮮語と中国語による日本語教育が行われている。

→ 具体的にどのように行われているのかを
明らかにする

博論の章立て

はじめに

第1章 研究の方法と目的

第2章 朝鮮族の言語

第3章 朝鮮族の日本語教育の変遷

第4章 朝鮮族の日本語教授法

第5章 朝鮮族の言語習得

第6章 これからの朝鮮族の日本語教育の展望

おわりに

インタビューした朝鮮族の ベテラン日本語教師

	出身地	教授年数	現在教えている学校
A先生	吉林省 吉林市	32年	吉林市朝鮮族中学校
B先生	遼寧省 鉄嶺市	30年	鉄嶺市朝鮮族高級中学
C先生	延辺朝鮮族 自治州 和龍市	26年	吉林市朝鮮族中学校

	出身地	教授年数	現在教えている学校
D先生	吉林省 梅河口市	28年	梅河口市朝鮮族 中学
E先生	吉林省 輝南県	23年	梅河口市朝鮮族 中学
F先生	遼寧省 鉄嶺市 (開原市)	20年	鉄嶺市朝鮮族高級 中学

A先生へのインタビュー

- ① 1977～1979年まで高等中学で2年弱日本語を学ぶ。日本語の先生は「満洲国」で日本語教育を受けた人
- ② 1983年から日本語を教え始める。すべて朝鮮語で授業を行う。学生たちは勉強をまじめにしていた。
- ③ 現在
99%朝鮮語で授業を行うが、朝鮮語があまりわからない学生がほとんどなので、中国語でも話している。不真面目な学生が増えてきている。

B先生へのインタビュー

- ① 1978～1982年まで朝鮮族学校で日本語を勉強。先生は「満洲国」時代に日本語教育を受けた先生。
- ② 1985年から日本語を教え始める。
中学1年生で日本語クラスが3クラス
(1クラス40人)もあった。
- ③ 現在
70%は中国語で教えている。いまの学生たちにとって、朝鮮語は外国語のようなもの。

C先生へのインタビュー

- ① 1978～1984年まで中高、日本語を勉強
日本語の先生は3人おり、ひとり「満洲国」期に
日本語教育を受けた先生。あとのふたりは若い男
の先生。
- ② 1989年から日本語を教え始める。
農村から来る学生はまじめに勉強する学生が多
かった。
- ③ 現在
90%は朝鮮語で教えているが、学生たちは朝鮮語
より中国語の方ができる。

D先生へのインタビュー

- ① 1980年に高校入学。中学から日本語を勉強した。
日本語を教えてもらっていたのは、「満洲国」期に
日本語教育を受けた先生
- ② 1987年から日本語を教え始める。
教科書は文法、読解のみ。学生の勉強に対する
意欲は高かった。
- ③ 現在
朝鮮語で説明しても、それがどんな意味か理解
できない学生が増えている。→中国語で説明する
割合が増えている。

E先生へのインタビュー

- ① 1984年に中学校に入学。高校まで6年間日本語を勉強する。
先生は、「満洲国」期に日本語教育を受けた先生。
- ② 1992年から日本語を教え始める。
以前は「柳河」や「輝南」にも朝鮮族学校があったが、いまはなくなってしまった。
- ③ 現在
朝鮮語50%、日本語40%、中国語10%の割合で教えている。

F先生へのインタビュー

- ① 1985～1991年まで6年間、日本語を学ぶ
中学で2人、高校には3人の日本語の先生がいた。
「満洲国」で教育を受けた人や、大学で日本語を専門的に勉強した先生などさまざまだった。
- ② 1996年から日本語を教え始める。
中国語より朝鮮語ができる学生の方が多かった。
2010年ごろから朝鮮語より中国語が得意な学生が来るようになった。
- ③ 現在
朝鮮語は60%ぐらい使用。朝鮮語で説明してわからない場合は、中国語で説明。

まとめ

・1970年代から1980年代にかけての日本語教育

- ① 教師は「満洲国」時代に日本語教育を受けた世代と、独学で日本語を学んだ世代が混在。
- ② 授業は朝鮮語と日本語で行われる。教師によってその授業スタイルは異なるが、基本的に文法中心、暗記型の教育。
- ③ 教材が不足しており、十分に日本語を勉強できる環境であるとは言えない。

・1980年代後半以降の日本語教育

- ① 大学で日本語を専門的に勉強した教師が現れる。朝鮮語で教える教師が多いが、中国語で教える教師も現れ始める。
- ② 学生たちの学習意欲は高く、まじめに勉強する学生が多い。中国語より朝鮮語ができる学生が多い。
- ③ 教科書は文法、読解が中心のもの。

現在の朝鮮族学校の日本語教育

- ① 日本語、朝鮮語、中国語による日本語教育。
朝鮮語だけで教えていた先生も中国語を使わざるをえない状況
- ② 学生たちは、朝鮮語より中国語の方ができる。
このような学生たちは年々増えている。
- ③ 教科書は会話の要素も加わり、四技能をバランスよく使えるものになっているが、学生の学習意欲は低下してきている。

今後の課題

- ・1990年以降に朝鮮族学校で日本語教育を受けた人々に対して行ったインタビュー調査についてもまとめ、その具体的な教育内容についても明らかにする。
- ・地域ごと、学校ごとに朝鮮族の日本語教育の実態を明らかにし、比較する。

参考文献

- ▶ ○参考著書
- ▶ 王智新編著(2000)『日本の植民地教育・中国からの視点』社会評論社
- ▶ 岡本雅享(1999)『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社
- ▶ 韓景旭(2001)『韓国・朝鮮系中国人＝朝鮮族』中国書店
- ▶ 金珽実(2014)『満洲間島地域の朝鮮民族と日本語』比較社会文化叢書
- ▶ 金美花(2007)『中国東北農村社会と朝鮮人の教育』御茶の水書房
- ▶ 久保田優子(2005)『植民地朝鮮の日本語教育』九州大学出版会
- ▶ 駒込武(1996)『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店
- ▶ 斉紅深著 竹中憲一訳(2004)『「満洲」オーラルヒストリー<奴隷化教育>に抗して』皓星社
- ▶ 坂部晶子(2008)『「満州」経験の社会学 植民地の記憶のかたち』世界思想社
- ▶ 徐敏民(1996)『戦前中国における日本語教育』エムテイ出版
- ▶ 関正昭・平高史也編(1997)『日本語教育史』アルク
- ▶ 竹中憲一(2000)『「満洲」における教育の基礎的研究』第1巻 柏書房
- ▶ 竹中憲一(2000)『「満洲」における教育の基礎的研究』第5巻 柏書房
- ▶ 竹中憲一(2003)『大連 アカシアの学窓』明石書店

- ▶ 戸田郁子(2011)『中国朝鮮族を生きる』岩波書店
- ▶ 本田弘之(2012)『文革から「改革開放」期における中国朝鮮族の日本語教育の研究』ひつじ書房
- ▶ 松宮弥平(1939)『日本語教授法』復刻版 冬至書房
- ▶ 山口喜一郎(1933)『外国語としての我が国語教授法』復刻版 冬至書房
- ▶ 山口喜一郎(1941)『日本語教授法概説』復刻版 冬至書房
- ▶ 山下達也(2011)『植民地朝鮮の学校教員 初等教員集団と植民地支配』九州大学出版会
- ▶ 『外地・大陸・南方日本語教授実践』復刻版 冬至書房 1943
- ▶ 雑誌『日本語』第1巻～5巻 日本語教育振興会
- ▶ 1941,1942,1943,1944,1945
- ▶ 『「満洲・満洲国」教育資料集成第十巻 教育内容Ⅱ』エムテイ出版
- ▶ 1993
- ▶ 『建国教育』満州帝国教育会 1940 1941 1942 1943 1944
- ▶ 『満州国語』 満州国語研究会 1940

▶ ○参考論文

- ▶ 韓秀蘭(2012)「中国延辺朝鮮族の中等教育における日本語教育の展望」『人文論叢 (三重大学)』第29号 三重大学人文学部文化学科
- ▶ 金紅梅(2009)「中国朝鮮族における外国語教育の展開について」『政策科学』第16号 立命館大学
- ▶ 金紅梅(2010)「中国延辺朝鮮族自治州における言語教育政策の今日の展開 —中国の普通話政策との関わりを中心に—」『政策科学』第17号 立命館大学
- ▶ 金珽実(2004)「清朝末期の学校カリキュラムに見られる間島朝鮮族の日本語教育」『比較社会文化研究』第15号
- ▶ 金珽実(2005)「間島に設立された普通学校について」『韓国言語文化研究院』第11号
- ▶ 金珽実(2006)「間島における日本側が設立した補助学校について」『比較社会文化研究』第19号
- ▶ 金美花(2005)「満洲国期間島における朝鮮人の社会と教育の展開—延吉県楊城村の事例を中心に(1932-1936)—」『東アジア研究』第41号
- ▶ 崔学松(2005)「中国東北地域における近代化改革と『日本語ブーム』—朝鮮族にとっての日本語教育—」『一橋論叢』第134巻 第3号 一橋大学
- ▶ 竹中憲一(2000)「間島における民族主義組織による朝鮮人教育」『東アジア研究』第27号
- ▶ 槻木瑞生(1999)「中国近代教育の発生と私塾 —中国間島における近代的学校の発生—」『東アジア研究』第24号
- ▶ 槻木瑞生(1999)「中国間島における朝鮮族学校の展開 —1910年代から1920年代初頭にかけて—」『東アジア研究』第25号
- ▶ 槻木瑞生(2005)「中国東北地方朝鮮族の教育構造の変化 —満洲国期を中心に—」『東アジア研究』第41号

- ▶ 槻木瑞生(2006)「満洲教育史研究のフロンティア ―いま満洲教育史研究が直面している問題―」『東アジア研究』第44号
- ▶ 槻木瑞生(2007)「満洲国時代の宗教教団の活動と教育」『東アジア研究』第48号
- ▶ 永嶋洋一(2012)「教育雑誌『建国教育』から見る『満洲国』期の『朝鮮族』教師」について『東北アジア文化研究』第33集 東北アジア文化学会
- ▶ 永嶋洋一(2013)「『満洲国』期の『朝鮮族』学校における日本語教授法と日本語使用状況に関する一考察」『日語日文学』第57集 大韓日語日文学会
- ▶ 永嶋洋一(2014)「『満洲国』期『朝鮮族』学校の教育環境について―教育雑誌『建国教育』及び現地調査を中心に―」『東北アジア文化研究』第38集東北アジア文化学会
- ▶ 本田弘之(2005)「中国朝鮮族の継承語維持方略と日本語教育」『社会言語学』第8巻第1号 社会言語科学会
- ▶ 本田弘之(2006)「中国朝鮮族中学における日本語教育の選択メカニズム ―「満洲国」後の日本語教育の連続性と非連続性―」『杏林大学外国語学部紀要』第18号
- ▶ 松原孝俊 監修 金珽実 翻訳(2002)「1945年以前の吉林省朝鮮学校」『韓国言語文化研究』第2号
- ▶ 山本忠士(2011)「延辺朝鮮族自治州の日本語教育」『アジア研究所・アジア研究シリーズ』No.77 亜細亜大学アジア研究所
- ▶ 尹貞姫(2005)「現代中国朝鮮族における言語問題と学校選択 ―延辺地域の言語使用に関する調査・分析を手がかりとして―」『ことばの科学』第18号 名古屋大学言語文化研究会

ご清聴

ありがとうございました！